



[本校] 〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1  
tel. 025-239-3111 fax. 025-239-3690  
[新潟中央キャンパス] 〒951-8068 新潟市中央区上大川前通7-1169  
tel. 025-227-7111 fax. 025-227-7117  
http://www.nuis.ac.jp somu@nuis.ac.jp



## 平成30年度 新入生 おめでとう

平成30年度の入学式が4月3日、本学体育館で行われました。第25回の新入生は、国際学部国際文化学科が128人(内編入1人)、新設した経営情報学部の経営学科105人、情報システム学科84人、合わせて317人。希望に胸を膨らませ、み

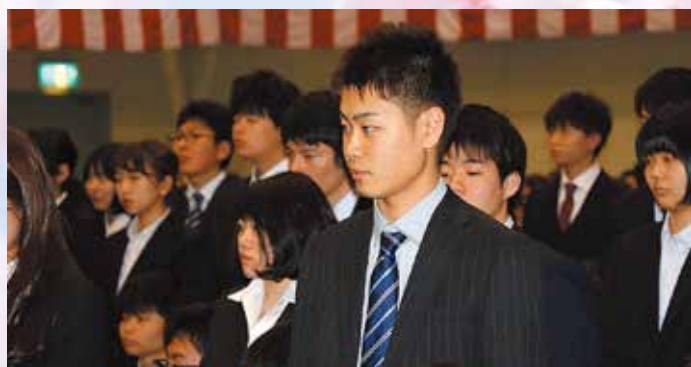
専門分野を極める努力を  
目標を定め主体的に学ぶ

スクリーンで紹介されました。

ずき野キャンパスでの学生生活がスタートしました。

新学長として4月1日に就任した野崎茂学長は「豊かな人間性と高い専門分野を極める努力を惜しまず、哲学、美学、文学、音楽などのリベラルアーツも学び、留学な

ることを目指します。新入生を代表して経営学科の稲葉太さんが「向上心を持って勉学やサークル活動などに取り組みます。大学生活で大きく成長したい」と抱負を述べました。



## CONTENTS

## 2~5面

平成30年度入学式特集  
学長式辞  
新入生代表・私の抱負  
在学生代表・歓迎の言葉  
両学部長のメッセージ

湧源  
退職教員あいさつ  
新任教員紹介

## 6~7面

COC+国際交流事業  
平昌五輪 通訳ボランティアで支援  
内野地域でにぎわい創出へ  
中学校で食育支援事業

オープンキャンパス案内

## 8~9面

派遣留学・海外夏期セミナー帰国報告

## 10~11面

就活へ 学生・企業交流会  
新潟米米協会・米国大使館  
学生ディスカッション  
第59回新潟広告賞 奨励賞受賞

平成29年度主な就職先一覧  
教員の活動

## 12~16面

平成29年度卒業式特集  
学長式辞・理事長祝辞・卒業生答辞  
JABEE認定22人に修了証書授与  
卒業にあたって  
特別表彰 式典スナップ



NUISホームページ  
https://www.nuis.ac.jp  
(スマートフォン対応)



Facebookページ  
https://www.facebook.com/nuis.face



LINE@  
@nuis-line3111  
LINEの「友だち追加」から  
「ID検索」で登録



Twitter  
@nuis\_nabbit



平成30年度

第25回

# 入学式

## 式辞

新潟国際情報大学  
学長 野崎 茂



2学部3学科  
体制を取るこ  
とと致しまし  
た。

国際学部国  
際文化学科に  
128名、経  
営情報学部経  
営学科に10  
5名、情報報  
システム学科  
に84名、合計

新入生の皆さん、本学への入学おめでとう  
ございます。本学教職員を代表致しまし  
て皆さんに心からお祝いを申し上げますと  
共に歓迎致します。

今更申し上げるまでもなく新潟港は幕末  
から明治にかけての開港五港の一つであ  
り、同港を抱える新潟は環日本海北東アジ  
アの拠点たりうる、地政学的にも極めて重  
要な場所に位置しております。この新潟で  
国際化、情報化の時代に地域で必要とされ  
る人材の育成を主たる目的に、本学は平成  
6年に創設されました。開学から数えて四  
半世紀、皆さんはちょうど25期目の新入生  
です。そして本学は今年度から国際化、情  
報化の一層の進展という時代の趨勢に対応  
すべく国際学部国際文化学科、経営情報  
学部経営学科と情報システム学科という

317名の新入生、これが皆さん方第25期  
入学の同期生ということになります。同期  
生の顔を覚えるのにちょうどいい規模、同  
期生のみならず先輩、後輩も含めた強力な  
ネットワークを構築することが出来る規模  
なのではないでしょうか。

国際学部国際文化学科では北東アジアや  
アジア太平洋地域などの国際社会の理解と  
英、露、中、韓を中心とした外国語の習得  
を通じ、地域ならびに国際社会の平和や真  
の発展のために貢献できる人材の育成を目  
指します。

経営情報学部経営学科では情報システム  
を使いながら、より効率的で効果的な経済  
活動や企業経営を実現するための知識を学  
んで行きます。同情報システム学科では情  
報システムの機能と仕組みを修得し、これを

## 自ら鞭打ち 一步一步

使いこなす知識と技術を身に付けて情報社  
会の発展に貢献できる人材を育成します。

私たち教職員は皆さん方が「国際化、情  
報化の社会の中で高い専門性を身に付け、  
豊かな人間性を兼ね備え社会に貢献できる  
人材」に育って行くよう全力を尽くしま

す。皆さんは大学におけ  
る高等教育を受けるとい  
う選択をしたのです。そ  
れぞれ興味を持った専門  
分野を極めるための努力  
を惜しまないでくださ

い。それと同時に哲学、  
美学、文学、音楽といった  
リベラル・アーツの世界  
に遊ぶことも必要です。  
学業のほかサークルなど  
の課外活動を通じて知己  
のネットワークを大きく  
広げてください。あるい  
はそれを留学も含め学外  
に求めるのもいいでしょ  
う。こうした大学での生  
活、社会での生活を有意  
義に送るための時間配  
分、教養科目、専門科目と  
いった授業科目の選択、  
駒割りも自ら目標を定め  
主体的に創り上げて行く  
のです。またそれに合わ  
せて生活の態様をここで  
一から見直してみてもい  
いのかも知れません。皆  
さんは今そうした自由を

手にしているのです。

さて、皆さんの中には高校時代に漢文を  
履修した方も多いと思います。その授業で  
「驚馬十駕」という言葉をお聞きになった  
方もおられると思います。紀元前3世紀の  
中国戦国時代に活躍した儒学者荀子の修身  
篇の中に「驥は一日にして千里なるも、驚  
馬も十駕すれば、則ち亦たこれに及ぶ」と  
いう一節があり、ここから出た熟語です。

「驥」は一日に千里も走る名馬、優れた  
才能を持った馬です。「驚馬」は足の遅い  
駄馬。もうお分かりだと思えます。文意は  
「世の中には一日に千里も走る名馬がいる。  
確かにいるが、一方で駄馬もいる。だが足  
の遅い駄馬であつても怠ることなく十日間  
走り続けられ、その名馬に追いつくことが  
できる」ということ。こう言いますと皆さ  
んは「ああ、それはイソップ寓話にもある  
ような話だ。兎と亀の話と一緒に。聞き飽  
きた」と思われることでしょう。そう、そ  
のとおりです。ただこの話にはもう一つ続  
きがあります。時代は下り所は変わって江  
戸時代末期の儒学者に塩谷宕陰という人が  
おりました。その著書「鞭駘録」の序文に次  
のような一節があります。「驚馬十駕」と  
いうが具体的にはどうやればいいのか」と  
問われた宕陰は次のように応えます。「之  
に鞭打ち之に鞭打ち、之に鞭打ちて又鞭打  
ち、今日十里を行き、明日十里を行き、行  
き行きて息まず。百年一の如くんば必ず志  
すところに至り、斃れて後に已む。其れ是  
れ之に及ぶに庶幾からんか」と。文意はあ  
えて申し上げるまでもないでしょう。昔、  
私も漢文の授業でこれを習った時に「痛い

だろうな。馬に生まれなくてよかった」とつくづく思ったものでした。

皆さんの中には特技を持った名馬もおられる。普通の馬やあるいは駄馬もおられるかもしれない。名馬はその才能をこのみずき野で大きく開花させてください。後者の中の、自発的に黙々と十日間走り続けることのできる真面目な普通の馬は必ず名馬に追いつきます。ただ、中には自分で駄馬だと思い込んでいる馬もいるでしょう。そのような馬でも「之に鞭打ち之に鞭打ち、之に鞭打ちて又鞭打つ」です。もちろん鞭打つのは自分自身です。周りが鞭打つではありません。自ら鞭打つ

# 「必ず志す所に至る」

態になったと感じた時には何時でもゼミの先生か学務課の職員のほか、この問題を担当していただきますキャンパスライフ支援委員に相談してください。

のです。そうすれば「必ず志す所に至る」のです。皆さんは自分がもし馬であつたとしたらどのタイプの馬だと思っておられますか。

こう申し上げてきましたところで、皆さんならびにご家族や皆さんを周りで支えてくださっている方々へ大学から毎年必ずお伝えしていることがあります。

それはこうして期待に胸を膨らませて入学しながら途中で休退学する学生が、ほん

してくれた家族や周りの皆さんにも感謝と御礼を申し上げます。

現在、私たちは、さまざまなネットワーク環境の中で生活をしています。このネットワークを駆使した技術は日々進化しており、私たちはこの目まぐるしい技術の進化

これからの学習で身に付けて、将来は国際化と情報化に貢献できる社会人になりたいと願っています。

いよいよ大学での新しい生活が始まるうとしています。何事にも今まで以上に興味と関心、疑問を持って探究する気持ちを忘れずに、向上心を持って取り組んでいきます。また学習だけでなく、サークルなどの課外活動において、人との関わり方、接し方を学ぶことで自分の考え方を豊かにし、人間

## 向上心を持ち 探究し続ける

に対応していく必要があります。また、ネットワーク技術の進化に伴い、社会のグローバル化が進み、外国の人たちと接する機会が増えてきており、円滑にコミュニケーションをとるための言語や表現力が必要になってきています。これらの知識や技術を

として成長していきたいです。

新潟国際情報大学での4年間を有意義なものにするために、経験豊富な先生方から多くの知識や技術を学びながら、日々成長し続けることをお誓いし、新入生を代表し、抱負とさせていただきます。

最後になりましたが、ご多用中にもかかわらず本日ご列席を賜りましたご来賓の皆さまには教職員一同心より御礼を申し上げます。ありがとうございます。新入生の皆さん、ご入学誠におめでとうござい

## 私の抱負



新入生代表  
経営学科 1年  
稲葉 圭太

暖かな春の訪れとともに、私たちは新潟国際情報大学の入学式を迎えることができました。

本日は私たち新入生のために、このような素晴らしい入学式を挙げていただき、誠にありがとうございます。数々の激励のお言葉にも、心から御礼申し上げます。また、私たちを今日まで温かく見守り、応援



## 歓迎のことば



在学生代表  
情報システム学科 3年  
佐藤 紘子

平成30年度新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、保護者の皆さま、おめでとうございます。在学生一同心から歓迎いたします。

新入生の皆さんは、新潟国際情報大学の学生として、これから4年間の大学生活を送ることになります。今日はその一日目です。今、皆さんはどのようなお気持ちでしょうか。分らないことが山ほどあり、新たな生活環境への不安などさまざまな不安を抱えている方もいらっしゃると思います。

しかし、大学は端的に言えば「楽しむ」場所です。勉学・研究に没頭する。友人との交流に時間を費やす。クラブ活動に精を出す。教授や大人たちとの関わりを広げる。自分で大学の外から楽しむものを見つけてくるのもいいと思います。私はそういった

「楽しむ心」をこの大学生活で会得し、自分の宝物の一つとして持ち続けてほしいと思います。ですから、今からでも構いません。「大学生活を楽しむぞ」という気持ちで積極的に臨んでみてください。また、自分はこの大学生活を卒業するときにどうなっ

ていけばいいのか、それまでにやらなければならぬことは何かを考え把握したうえで、行動に移し思いっきり楽しんでください。

これから大学生活を送る上で大切なことを二つ新入生のみなさんにお伝えしたいと思います。ひとつ目は、「自分から考え自分から行動すること」です。大学は高校とは違い、自分で考え一人で決断をしなければならぬ物事が多くあります。また、大学は自由です。自由の中では選択肢があまりにも多いため迷いもありますが、自発的な思考と責任が求められます。ところがこの多い選択肢から自分で結論を出さないまま、大学生活を送る学生が大勢います。自由とは何もしないで良いという訳ではありません。自分に責任を持つと言うことです。是非この言葉を常に念頭に置いておいてください。そして、大学の外へも積極的に行動の幅を広げることをお勧めします。

二つ目は「人との関わりやつながりを広げること」です。皆さんが困難に当たった

## 思いっきり楽しんで

### 自ら考え行動、人と関わる

時、何か協力をして欲しいとき、誰かとつながっていれば必ず助けてくれる人が現れます。また、人との関わりを大切にしていれば、自分だけではかなえられない貴重な体験をすることもできます。人と関わることは、良いことだけではありません。です

## 祝電

順不同

|                     |         |         |
|---------------------|---------|---------|
| 日本私立大学協会            | 会長      | 大沼 淳様   |
| 新潟県                 | 知事      | 米山 隆一様  |
| 新潟市                 | 市長      | 篠田 昭様   |
| 新潟商工会議所             | 会頭      | 福田 勝之様  |
| セコム上信越株式会社          | 代表取締役会長 | 野沢 慎吾様  |
| 株式会社日本ドリコム          | 代表取締役   | 山城 由紀雄様 |
| 株式会社福田組             | 代表取締役社長 | 太田 豊彦様  |
| 株式会社リクルート北関東マーケティング | 代表取締役社長 | 中島 淳二様  |

が、最後に自分を成長させてくれるのは人との関わり、つながりです。恐れず、積極的に関わってみてください。

最後になりますが私は皆さんにこの大学を大好きになってもらいたいのです。ふるさと新潟とこの大学を好きにな

るよう努力してください。あたりまえのようですが、好きでないと続きません。4年間という年月の中で楽しいこと

もありですが困難に立ち向かわなければいけないこともあると思います。そんな時でも胸を張って新潟国際情報大学が好きだといえる学生になつてもらいたいと思います。これからの4年間の学生生活が充実したものになることを願って、歓迎の言葉とさせていただきます。

## 湧源

編集後記に代えて

入試・広報委員長 安藤 潤

18歳の頃だった。チキンラーメンの生みの親である安藤百福氏が関西ローカルの深夜番組に出演し、彼が発見したチキンラーメンのおいしい食べ方を紹介していた。一人用の土鍋で煮込み、煮えたら真ん中に生卵を落とし周りに刻んだニラを散らし、蓋をする。台所からテーブルに運んで、蓋を開ける頃にはちょうどいい感じで卵の白身が半熟状になり、それを箸で崩し、麺と絡ませて食べるのが一番おいしいとのこと。

翌日からハマってしまった。午後4時頃にこの作り方でほぼ毎日チキンラーメンを食べ続けた。もちろんその後の晩ご飯も。その結果、大学に入る頃には体型が大きく変わっていた。体重も過去最高を記録。そこでやめればよかったのだが、エースコックのワンタンメン、サッポロ一番塩ラーメンとともにチキンラーメンは大学生になつても煮込み系インスタントラーメンの別れがたき「三大親友」となる。

ただ最近のインスタントラーメンには落胆させられている。煮込み系インスタントラーメンと言えば「金のない独り暮らしの男の不健康な食事」の象徴だったにもかかわらず、最近では健康を考えて栄養素まで書いてある。加えて技術進歩が可能にしたとはいえインスタントラーメンとは思えないほどに本格的な麺になってしまった。

学生時代の友人とほとんど会わなくなつたように、さすがにもう煮込み系インスタントラーメンとご対面することはほとんどなくなつた。それでもラーメンは好きだ。2年ほど前からほぼ毎週日曜日のお昼は近所のラーメン屋で「からし味噌チャーシューめん」にもやしをトッピングと決めている。それでいて体重はこの1年で2キロは落ちた。入試・広報委員長はかくも過酷な仕事だったのだとあらためて感じさせられる。

# 新入生に望む 学びの輪広げ 教養と人間力を磨く

## 国際学部



佐々木 寛 学部長

での「常識」をいったん忘れてみてください。偏差値やペーパーテストで測れるような力は、本来社会で活躍するための力全体からみればほんの一部分にすぎません。本物の教養や人間力はこれから新潟国際情報大学で十二分に養うことができます。高校までの〈勉強〉とは異なる

問〉には、「自己超越」と「自由」という欲<sup>ほ</sup>びがあります。大学ではぜひ、これまでの小さな囚われを脱ぎ捨てて、この知的な大海原に船出してほしいと思います。

国際学部は、全国でも第一線で活躍する先生たちがそろっています。遠慮はいりません。個

## 本物の〈学問〉に触れて

入学おめでとうございます。本学が第一志望だった諸君も、第一志望ではなかった諸君もいるかもしれません。けれども大学に入学したら、これま

り、大学は、これまでの「常識」を超えた新しい「常識」を創り出す〈学問〉の場所です。〈学

性的な先生方にしつこく食らいつつながら、ぜひ本物の〈学問〉の欲<sup>ほ</sup>びに触れていただきたいと思

## 経営情報学部



小林 満男 学部長

活を含む80年ぐらひは生きることになるでしょう。その長期にわたる人生を元気に幸せに生きていく上で大事なことは、生涯にわたって学び続けるということです。

大学は、学び方や学ぶ習慣を身に付ける格好の環境にあります。本大学には多様な職業経験

大いに学びの輪を広げてくださいます。

情報文化学部情報システム学科は、4月から新たに経営情報学部経営学科と情報システム学科としてスタートしました。ぜひ自分の関心領域に軸足を置きながらできるだけ幅広く学ぶことをおすすめします。情熱を持

## 情熱を持った継続は力

入学おめでとうございます。昨今、人生100年時代という言葉を見聞きします。4年間の大学生活を終えてから、大半の人は50年にも及ぶ職業生

や学識を有する教員、そして、さまざまな高校から進学してきた仲間が集まっていますので、

一歩、踏み出してみてください。「情熱を持った継続は力なり」です。

## NUISを去るにあたって



## 子どもの認知発達を調査

情報システム学科 准教授 伊村 知子

地域の方々のご協力です。

ちゃんや子どもの認知発達調査にも取り組みました。私自身も学生も、子どもたちとの関わりや親との会話から多くを学ぶ貴重な経験ができました。日々の教育と研究を支えてくださった教職員や地域の皆さまに心から感謝します。新潟国際情報大学のご発展と皆さまのご活躍とご多幸をお祈りします。

3月末に本学を離れ日本女子大学に異動しました。大学教員として初めて赴任した新潟の6年間はとても充実した日々でした。素晴らしい出会いに恵まれ、伸び伸び教育や研究に取り組みました。心理学は2学部の学生が受講し、両学部と心理学との接点を考えてトピックを選ぶのが楽しかったです。心理学を学んでよかったという学生の声にも励まされま

## 佐々木 宏之 ささき ひろゆき

経営情報学部  
経営学科 准教授  
博士（文学）

担当授業 ・心理学 ・認知科学 ・統計学

経歴 ・東北大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学（心理学専攻）  
・新潟中央短期大学幼児教育科准教授

## 土屋 翔 つちや しょう

経営情報学部  
経営学科 講師  
博士（経営学）

担当授業 ・経営学入門 ・経営戦略

経歴 ・神奈川大学大学院博士後期課程修了  
・QLT研究員 ・サロン de WINE研究員  
・SOSA地域活性化センター主任研究員  
・Global sustainability Institute of Japan 理事

## 新任教員紹介



# 海外提携5大学の教員・学生24人が来校

## COC+国際交流

COC+（文部科学省が推進する「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」）国際交流関連事業の一環で昨年11月下旬、海外の提携大学（カナダのアルバータ州立大学、中国の北京師範大学、韓国の慶熙<sup>キョンヒ</sup>大学、ロシアのウラジオストク国立経済大学、アメリカ

## 三条市、弥彦村を視察

カのセントラル・ミズーリ州立大学）から教員と学生24人が来学し、新潟県立大学の留学生1人も加わって楽しく交流を行いました。

提携大学の一行は

11月20日に新潟市に到着し、21日は平山学長に表敬訪問をして語学の授業を見て学。22日は本学の学生との交流会に参加しました。

## 中国、韓国、ロシア領事館と親交

23日は三条市の三条鍛冶道場と弥彦村でペーパーナイフの製作体験と越後一之宮の弥彦神社を参拝しました。夜はホテル日航新潟で開いた歓迎会で弥彦村と中国、韓国、ロシアの各総領事館からのお客さまと交流を深めました。

24日は本学国際交流センターでワークショップを行い、弥彦神社での体験から「弥彦の魅力」をテーマにプレゼンテーションをして弥彦村職員から総評をいただきました。（企画推進課）

## 平昌五輪 ロシア・フィギュア選手団 新潟市合宿

### 通訳ボランティアで支援

### 憧れのスケート選手に同行

国際文化学科3年 石田 真由



ロシアのフィギュアスケート男子代表のコーチと話す石田真由さん

式通訳の不在時に選手たちとスタッフに付き添うサポートをかって出しました。そして練習場へ往復するバスやジムでのトレーニング、日用品の買い物などにも同行しました。

私は幼いころからフィギュアスケートが好きで、今回は憧れのロシア選手に接する夢

がかないました。時折、難しい通訳の場面もありましたが、選手たちにより良い調整をしてほしいという一心から精一杯取り組みました。おかげで、今後さらにロシア語の勉強に励もうと思うようになりました。

平昌冬季五輪に出場したロシアのフィギュアスケート選手団が1月29日から2月18日まで新潟市内で事前の合宿を行うことを知り、新潟市のロシア語通訳ボランティアに参加しました。私は昨年ロシアに半年間ほど留学をしてきた経験を生かして、公

三条鍛冶道場でカナダアルバータ州立大学の学生がペーパーナイフの製作体験





夜に映える雪上イルミネーション

## 「インスタ映え」魅力アップ

新潟市西区内野地域の魅力再発見とにぎわい創出へ、藤田美幸研究室の学生3人は1月13日に開かれた同市西区自治協議会の提案事業「うちのDEこすぷれ&イルミネーション」の企画から運営まで関わり、参加しました。

られる仕組みを考えました。流行の「インスタ映え」を意識し、内野まちづくりセンターの屋内外をイルミネーションで装飾。他のコスプレ・イベントにはない撮影環境をコスプレ・イヤーや地域の皆さまに提供することができました。

## 内野地域でにぎわい創出へ こすぷれ&イルミネーション

情報システム学科4年 小林直起

新潟西商工会と協力し、参加者が気軽にコスプレを楽しみJR内野駅前通りや飲食店の前などで記念撮影できるようにし、店舗の看板前で撮影した写真をSNSで発信。その画面を協力店舗で提示すれば割引などの特典が受け

られ、西区アートキャラバンなど地域イベントともタイアップして次第に大きく成長しています。内野商店街の活性化のため、今後も地域の人たちと協力して内野地域の魅力を発信していきたいと思っています。

予算枠や土地柄など諸事情による悩みもありましたが、今年で4回目の行事は徐々に認知さ

高木義和研究室は、地域貢献の一環として2月下旬、新潟市の白南中学校と赤塚中学校で栄養成分データベース（DB）を活用した食育支援授業を行いました。

高木研究室

### 中学校で食育支援事業

## 栄養成分DBを活用

このDBは研究員の卒業生がプログラミングして作成したもので2002年からウェブ上に

各食材と分量を入力すると、教科書と同じ赤・黄・緑の色で表示されます。そして炭水化物、タンパク質、脂質などのエネルギー



新潟市赤塚中学校で栄養成分データベースを活用した食育授業に参加

ギーの割合と主な栄養素の充足率が計算表示されて、栄養バランスを確かめられます。

（情報システム学科教授 高木義和）

食育の授業では、生徒たちがiPadを使って料理に含まれる栄養素やカロリー量を確認したり、さらにバランスの良いメニュー作りに挑戦したり、楽しそうに学んでいました。各家庭でも好ましい食習慣の支援になり地域の暮らしにも役立つと思います。

オープンキャンパス

# OPEN CAMPUS 2018

学食体験 無料

送迎バス運行 無料

(1回目) 7/15(日)  
(2回目) 8/5(日)

高校生はじめどなたでも参加できます!

| 1回目         | 2回目         | 3回目         | 4回目         |
|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 7/15(日)     | 8/5(日)      | 9/2(日)      | 12/9(日)     |
| 10:20~15:30 | 10:20~15:30 | 10:20~15:00 | 13:15~16:30 |

①学部・学科紹介 ②入試情報・傾向と対策 ③模擬講義  
④語学体験(英語・ロシア語・中国語・韓国語) ⑤コンピュータ実習  
⑥入試・海外留学・就職個別相談 ⑦入試対策講座  
⑧実験体感コーナー ⑨キャンパスツアー ⑩保護者プログラム など

会場 新潟国際情報大学 本校  
新潟市西区みずき野3-1-1  
(JR越後赤塚駅下車 徒歩7分)

参加お申込み  
本学ホームページまたは下記までお申込みください。

※時間やイベントについては、変更になる場合があります。最新情報は本学ホームページをご覧ください。

お問い合わせ先 入試・広報課 〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1 TEL 025-264-3777(直) FAX 025-264-3780 E-mail nyushikouho@nuis.ac.jp



# 異文化を学び 貴重な体験

## カナダ

私たちカナダ夏期セミナー参加者12人は昨年8月6日から9月2日まで、カナダのアルバータ州立大学で学びました。

夏期セミナーでは、他国や他大学の学生と一緒に少人数制で英語を学ぶ約3週間のIDPクラスと、その後の1週間は本学

## 多国籍でフレンドリー

### 生活や文化の違い実感

情報システム学科4年 荻野 真徳

学生だけでオリジナルのホームページを作成するITクラスの授業に参加しました。

ITするときに皆さんがいつも快く応じてくれたことに驚きました。生きた英語を学べるとても良い環境だと実感しました。

最初は授業についてゆくのがやっとだったITクラスでは、自分オリジナルのホームページ

ITクラスでは英語の説明を受けてからプログラミングなどを行いました。

を無事に完成させることもできました。また、地元のラジオ局訪問や世界遺産のカナディアンロッ

・エドモントンでは建国100周年を迎えたカナダの伝統と歴史を深く感じました。

カナダの人々は皆さんが本当に温かく親切で、英語が話せなくて人見知りな私にも親切に話しかけてくれました。アルバータ州立大学で学生に新潟の魅力

を伝えるプレゼンテーションでは、同じ班内で協力し合い、とても良い発表ができたと思います。過ごした期間は4週間と短かったのですが、得られたものは大変多く充実した毎日を通すごすことができました。

このような機会を与えてくださった本学と全面的にサポートしていただいた先生方、留学の後押しをしてくれた家族に感謝して、留学で得たことを今後に生かしていきたいと思います。

## アメリカ

私たち22人は昨年8月23日から12月8日まで、米国のミズーリ州にあるセントラル・ミズーリ州立大学に留学しました。

英語を母語としない人のためのIntensive English Programに参加して、レベルに応じて4つのクラスに分かれ、韓国人や中国人、サウジアラビア人など

多様な国籍の学生と一緒にほぼ全ての授業でディスカッションを行

い、多くの異なる考え方に触れ、視野を広げることができました。

日常生活では、大学の寮に滞在してアメリカ人や外国人の学

生たちと話したり、さまざまな学内イベントに参加したり。現

地元の家庭の夕食に招いていた

## 伝統の家庭料理楽しむ

### 人種差別の抗議行動も

国際文化学科3年 田中 克

地の友人にさまざまなか所へ連れて行ってもらい、アメリカ人のルームメートを持つことはできなかったものの、アメリカでの生活を大いに楽しめました。

だき、七面鳥やマッシュポテトといった伝統的な家庭料理を味わいました。サンクスギビング・ブレイクという1週間以上の休暇を利用して、カンザスシティやシカゴ、フロリダへ旅行する学生も多く、私は友人と一緒に東部の商工業都市セントルイ

スへ行きました。とても楽しい旅行でしたが、ショッピングモールで買い物中、近隣の町で白人が黒人に発砲したことを発端にした人種差別への抗議行動が始まり、交通規制で身動きが取れなくなるなど少し怖い場面もあり、アメリカの社会問題について身をもって感じました。



# 5カ国派遣 海外セミナー

## 韓国



### 素晴らしいバレエ鑑賞 多くの出会い思い出に

国際文化学科3年 石田 真由

私たち8人は昨年8月29日から12月28日まで、ロシアのウラジオストク国立経済大学で学びました。多くの人と出会い、新しいことを経験し、充実したとても価値のある留学でした。

最初は1ヵ月間は先生の説明も教科書も理解できず、授業から取り残されている気がして不安でした。課題やテストも多く、毎日何時間でも必死で勉強しました。徐々にできることが増え、聞くだけで一杯だった授業に参加できたときは大きな喜びでした。

一緒に学んだ韓国留学生と仲良くなれたことは本当に良かったです。授業では分からないところを教えてもらい、話をするうちにだんだんと心の距離が縮まりました。

素晴らしいロシアバレエを鑑賞して、クラスメートとスケートをしたり、おしゃれなカフェに遊びました。韓国語を毎日使う生活をするうち、少しずつ韓国語の能力が向上しました。

私たち15人は昨年9月5日から12月28日まで、ソウルにある慶熙大学で学んできました。最初の3週間は初級1(文法・聞き取り・会話)を受講し、その後はさまざまな国の学生と一緒に秋学期課程に入りました。

最初は韓国語が話せず日本語も通じないので不安ばかり。英語も少ししかできないので悩むことも多かったのですが、習った韓国語を駆使して意

思疎通を試み、韓国語を毎日使う生活をするうち、少しずつ韓国語の能力が向上しました。上達したのはリスニングです。韓国に着いたばかりのころはお店の人が話している内容が分からず何度も心が折れまし

みになりました。積み重ねてきた努力が報われとてもうれしかったです。留学ができたのは両親や先生のおかげです。心から感謝して、これからも韓国語の勉強を頑張りたいと思います。



## 中国

国際文化学科3年 鈴木 桃佳

### 語学能力が自然と向上 コンサート、歌も楽しむ

の後はさまざまな国の学生と一緒に秋学期課程に入りました。最初は韓国語が話せず日本語も通じないので不安ばかり。英語も少ししかできないので悩むことも多かったのですが、習った韓国語を駆使して意



私たちは4人は昨年8月28日から今年1月9日まで、中国の北京師範大学に留学しました。当初は中国語が聞き取れず、食事や日本とは違う生活に慣れるまでに時間がかかりました。しかし、10月を過ぎると言葉が聞き取れるようになり、クラスメートと会話ができる中国生活が楽しくなりました。11月には河南省へ旅行をして歴史的建造物や食文化に触れました。北京に戻って河南省旅行のレポート

留学を終えることができました。また、奨学金制度のおかげで留学に踏み切ることができたことを感謝します。これからは後輩のサポートに回り、できるだけ不安を取り除いてあげたいと思っています。

### 河南省旅行でレポート だんだん生活が楽しく

国際文化学科3年 丸山 莉奈

中国語でまとめると、中国語の能力が上がっていると実感することができました。

留学前は中国について良いイメージはありませんでしたが、中国で生活して、現地の方とも親切であることを知りました。中国語が分からなかった時は、丁寧に分かって説明してくれ、帰国の際にはプレゼントを贈ってくれました。

中国の友達だけでなく、クラスメート、家族、先生方、学務課の方々の支えがあったからこそ無事に



## 就活へ「学生・企業交流会」



県内外194社、3年生229人が参加

## 採用担当と面談 働き方など質問

「平成29年度就活直前！  
NUISS学生・企業交流会」  
を2月14日、本校体育館で  
開催しました。新年度の就  
職活動スタートの前に、学  
生と企業・団体との接点づ

くりとして今年で4回目の  
交流会でした。  
交流会には県内外から1  
94社の企業と団体の採用  
・人事担当者らが参加。就  
職を希望する3年生229  
人が、それぞれ複数社のテ  
ーブルを回って担当者と面  
談し、各社の現況や仕事の  
内容を質問するなどコミュ  
ニケーションを図りました。  
インターネットなどで企  
業情報を得ていた学生たち  
は、各業界の実情や各社の  
働き方や福利厚生面などを  
直接たずねることができ、  
これからの就職活動に役立  
つと同時に多方面から社会  
を知るよい機会となりました。  
(キャリア支援課)

新潟市のホテルイタリア  
軒で2月13日、新潟日米協  
会・米国大使館共催の学生  
ディスカッションが開催さ  
れ、参加しました。

### 新潟日米協会・米国大使館 学生ディスカッション

私たちのグループは「日本  
人は、定型文ばかりを学習  
する傾向がある」「教科書  
にある定型文をそのまま暗  
語を学べるのではないか」  
という結論を導き出すこと  
ができました。  
普段は関わる機会の少な

## 効果的な英語学習とは

国際文化学科3年 竹石三則

新潟県内の大学生  
と専門学校生30人ほ  
どが参加したディス  
カッションでは、5  
6人ごとのグルー  
プに分かれて「効果  
的な英語学習方法」  
について話し合い、グル  
ープ代表が英語で意見発表を  
行いました。さまざまな意  
見が積極的に飛び交う中、

記するのではなく、自分の  
身の回りの事象やパターンの  
方々と話すことができ  
て、貴重な経験となりまし  
た。



グループごとテーブルに分かれて英語の上達方法をディスカッション

Japanese College Students' TESOL2018 International Convention & English Language Expo  
(McCormick Place Convention Center in Chicago)

#### 佐藤 若菜(国際文化学科・講師)

- ・(2017年12月2日) コメンテーター「移動と流行：現代中国のコンタクトゾーン」南山大学人類学研究所公開シンポジウム(南山大学)
- ・(2017年12月8日) ゲストティーチャー「中国農村部における少数民族・ミャオ族と民族衣装」敬和学園大学「アジア文化論2」(敬和学園大学)
- ・(2017年12月27日) 「中国少数民族文化からみた日中関係：ミャオ族の民族衣装に着目して」東アジア人類学研究会第4回研究大会(大学セミナーハウス)
- ・(2017年12月28日) コメンテーター「中国における日本人類学：西南少数民族研究に着目して」(中国語) 第4回日本文化人類学会国際シンポジウム「東アジアにおける人類学の国際化／グローバル化：第2部 中国と日本」(首都大学東京)

#### 藤田 晴啓(経営学科・教授)

- ・(2017年7月29日) 基調講演「SVOおよびBDF発電のカーボンフットプリント、環境および産業の視座から」第2回バイオマス国際会議(ボゴール農科大学)
- ・(2017年10月12日) 基調講演「廃食油からのBDF製造とSVO発電、世界の再生可能エネルギーからキッチンまで、提案ボゴールプロジェクトにおける職業訓練プログラムの役割」国際エネルギー・食糧保障応用化学会議

#### 山田 裕史(国際文化学科・講師)

- ・(2018年2月10日) ワークショップ「カンボジアにおける権威主義体制の歴史的起源」慶應義塾大学次世代研究プロジェクト推進プログラム「アジアにおける権威主義体制の歴史的起源」(政策研究大学院大学)

### 3) 競争的資金獲得研究

#### 神長 英輔(国際文化学科・准教授)

- ・(2018年1月より継続～12月) JFE21世紀財団・大学研究助成金・アジア歴史研究助成「近代東北アジア諸地域におけるコンプ漁業の比較研究」

### 4) 委員・社会的活動・記事・その他

#### 安藤 潤(国際文化学科・准教授)

- ・(2017年12月22日～29日) 日本経済新聞「やさしい経済学」「アイデンティティと経済行動①～⑥」
- ・(2018年1月11日) 新潟日報assh2018年1月11日号(新潟版)「古町一より魅力あるまちに」

#### 臼井 陽一郎(国際文化学科・教授)

- ・(2018年1月1日) 「図書新聞」2018年1月1日号「格差と分断のEU2017」

#### 内田 亨(経営学科・教授)

- ・(2018年3月1日) NOSAI新潟 コンプライアンス委員会(NOSAI新潟)

#### 小林 満男(情報システム学科・教授)

- ・(2017年4月1日より継続～2023年3月31日) 黒崎商工会経営発達支援事業 評価委員
- ・(2016年4月1日より継続～2019年3月31日) 一般財団法人自治体衛星通信機構 理事

#### 佐藤 泰子(国際文化学科・英語講師)

- ・(2018年2月13日) 新潟日米協会・米国大使館共催 第一部「学生ディスカッション 効果的な英語学習方法」ファシリテーター(ホテルイタリア軒)

#### 高木 義和(情報システム学科・教授)

- ・(2018年2月15日) 第2回新潟市個人情報保護審議会(会長)平成28年度個人情報保護制度の実施状況について

#### 高木 義和(情報システム学科・教授)、小宮山 智志(経営学科・准教授)

- ・(2018年2月21日～22日) 白南中学校/赤塚中学校の食育授業における栄養計算DBの利用

#### 藤田 晴啓(経営学科・教授)

- ・(2017年10月19日) 科研「インドネシア・パセマ高原の装飾古墳の基礎的研究」に関わる共同研究確認書(Letter of Agreement)をインドネシア考古学研究所と締結する
- ・(2017年10月20日) 科研「インドネシア・パセマ高原の装飾古墳の基礎的研究」に関わる研究協力をボロブドゥール保存事務所申し入れ、情報交換を科研代表を交え行う

#### 吉澤 文寿(国際文化学科・教授)

- ・(2018年3月15日) 朝日新聞全国版「私の視点 日本軍『慰安婦』問題 「積極的平和」に向け貢献を」



|   |   |   |   |
|---|---|---|---|
| (株)アーケベル<br>アークランドサカモト(株)<br>あいおいニッセイ同和損害保険(株)<br>青山商事グループ<br>アグリアルティリビンググループ<br>アサヒレックスホールディングス(株)<br>(株)アジアカタ<br>(株)アスカプランニング<br>(株)愛宕福祉会<br>(株)アドヴァンス・インフォメーション・デザイン<br>新井信用金庫<br>アルファテックノロジー(株)<br>(株)アンドクリエイト<br>(株)E&Cマクロム<br>(株)イオンフォレスト<br>イワツキ(株)<br>岩村養鶏(株)<br>(株)インテックソリューションパワー<br>(株)ウィザップ<br>ウエルシア薬局(株)<br>(株)ウオロク<br>(株)内山溶接工業<br>(株)ウメザワドライ<br>(株)ウメダニット<br>(株)エイエイピー<br>(株)エイジェック<br>(株)エイチ・アイ・エス<br>(株)エスエフシー新潟<br>越後さんとう農業協同組合<br>越後中央農業協同組合<br>越後ながおか農業協同組合<br>NECネクサソリューションズ(株)<br>(株)NHC<br>(株)NSGホールディングス<br>(株)NSホールディングス<br>(株)NCI<br>(株)エヌ・シー・エス<br>(株)エヌリンクス<br>(株)FMG<br>(株)エフティグループ<br>オークス(株)<br>(株)オーシャンシステム<br>大竹オール(株)<br>大野精工(株)<br>(株)大原鉄工所<br>岡三にいがた証券(株)<br>(株)小川川会<br>(株)オタケ<br>カナカン(株) | カネ美食品(株)<br>(株)川内自動車<br>北越後農業協同組合<br>(株)北村製作所<br>(株)キュービット<br>協栄信用組合<br>(株)クスリのアオキ<br>クリナップ(株)<br>(株)グローバルネットコア<br>(株)京急イーエックスイン<br>(株)グオホールディングス<br>(株)興和<br>コクヨ北陸新潟販売(株)<br>コニカミノルタNC(株)<br>(株)コマザワ精機<br>(株)コメリ<br>(株)コフフール・ド・パリ・ジャポン<br>コンピュータロン(株)<br>サイバーコム(株)<br>佐渡市介護老人保健施設すこやか両津<br>(株)三條機械製作所<br>三条信用金庫<br>三條信用組合<br>(株)サンソウシステムズ<br>サントリービバレッジサービス(株)<br>(株)三宝<br>(株)シーエスレポーターズ<br>(株)JR東日本ステーションサービス<br>(株)ジェイ・エス・エス<br>(株)ジェイマックスソフト<br>(株)システムアート<br>システムリサーチ(株)<br>島津ホールディングス(株)<br>清水商事(株)<br>(株)ジュン<br>(株)商工組合中央金庫<br>昭和電機産業(株)<br>(株)シリウス<br>(株)鈴木コヒー<br>(株)ズギ自販新潟<br>(株)ステップ<br>(株)スポット<br>生活協同組合コープにいがた<br>セコム上信越(株)<br>(株)総研システムズ<br>(株)総合システムプロダクツ<br>(株)ソフトウェアサービス<br>ソリマチ(株)<br>(株)第一印刷所 | (株)第一実業<br>(株)大建建設<br>(株)大光銀行<br>(株)第四銀行<br>(株)大和総研ホールディングス<br>(株)タカヨシ<br>辰巳屋興業(株)<br>(株)田中衡機工業所<br>中越運送(株)<br>中越グリーンサービス(株)<br>司コンピュータ(株)<br>燕・弥彦総合事務組合<br>(株)ツルハ<br>(株)ディーガイア<br>(株)TNF<br>デビフベツ(株)<br>東京コンピュータサービス(株)<br>東芝ホームテクノ(株)<br>(株)トーク&トーク<br>(株)富樫組<br>(株)トラステック<br>7improvementsグループ<br>(株)ナルサワコンサルタント<br>にいがた岩船農業協同組合<br>(株)新潟エヌターエヌ<br>(株)新潟NPO協会<br>医新潟勤労者医療協会<br>(株)新潟グランドホテル<br>新潟県警察<br>新潟県信用組合<br>(株)新潟県農協電算センター<br>新潟県労働金庫<br>新潟航空サービス(株)<br>新潟交通商事(株)<br>新潟市消防局<br>新潟自動車産業(株)<br>(株)新潟食品運輸<br>新潟信用金庫<br>新潟精機(株)<br>(株)新潟ダイハツモータース<br>新潟トヨペット(株)<br>新潟日産モーター(株)<br>新潟みらい農業協同組合<br>新潟ヨコハマタイヤ(株)<br>ニエロ(株)<br>日拓電子(株)<br>(株)日産サティオ新潟西<br>日本郵便(株)<br>日本生命保険相互会社 | 日本ビルコム(株)<br>(株)ネイグル新潟<br>ネットヨタ新潟(株)<br>野村證券(株)<br>ハーパーハウス(株)<br>(株)ハウステック<br>(株)波多野自動車販売整備<br>(有)パラーズファクトリー<br>(株)BSNアイネット<br>東日本旅客鉄道(株)<br>(株)ビッグモーター<br>(株)ビット・エイ<br>福田道路(株)<br>富士ゼロックス新潟(株)<br>藤田金属(株)<br>(株)富士通新潟システムズ<br>(株)フジミック新潟<br>(株)PLANT<br>プリデストリテールジャパン(株)<br>(株)ベストランド<br>(株)北越銀行<br>(株)ホテルオークラ新潟<br>(株)ホテル清風苑<br>(株)ホテル新潟<br>(株)ホンダ四輪販売新潟<br>(株)マツイフーズ<br>(株)マルイ<br>(株)マルサン<br>(株)マルハン<br>(株)マンションセンター<br>(株)水倉組<br>三星金属工業(株)<br>南浦原森林組合<br>(株)ミロク情報サービス<br>明治安田生命保険(株)<br>明和工業(株)<br>最上峡芭蕉ライン観光(株)<br>森井紙器工業(株)<br>(株)モリキ<br>(株)安武商事<br>(株)山忠<br>ヤンマーアグリジャパン(株)<br>(株)雪国まいたけ<br>RIZAP(株)<br>リコージャパン(株)<br>(株)リビングギャラリー<br>(株)レックス<br>(株)ワタナベ<br>和同情報システム(株) |
|---|---|---|---|

平成30年3月現在(五十音順)



## 第59回新潟広告賞

本学が経営情報学部の新設に合わせ、制作した新聞全両面広告「つなぐ...つながる」が、新潟広告協会主催の第59回新潟広告賞で奨励賞を受賞しました。

審査員からは「大きな構図で新潟と世界の街をつなぐデザインが、初めて奨励賞に輝く」

「つなぐ...つながる」

「つながる」のコンセプトを鮮やかに表現している(一部抜粋)との講評をいただきました。

本学広告の奨励賞受賞は初めて。授賞式は3月16日、新潟市のホテルイタリヤで開催されました。

## 教員の活動(本人申告による)

## 1) 研究論文・図書

安藤 潤(国際文化学科・准教授)

・(2018年3月)『ポスト冷戦期における日米防衛支出の実証分析』文眞堂(216頁)

區 建英(国際文化学科・教授)

・(2018年3月)『區大典— 一個寓港經學家的信念与奮闘』台湾萬卷樓圖書『國文天地』(394号)

・(2018年3月)丸山眞男(訳: 區 建英)『福澤諭吉と日本近代化』(第三版)北京師範大学出版社

神長 英輔(国際文化学科・准教授)

・(2017年12月)『堤清六と平塚常次郎 政治家になった二人の漁業者』『続・日露異色の群像30』生活ジャーナル社(213-229頁)

・(2018年2月)共訳『メイド・イン・ソビエト 20世紀ロシアの生活図鑑』水声社

佐藤 若菜(国際文化学科・講師)

・(2018年1月)書評『装いの民族誌—中国雲南省モンの『民族衣装』をめぐる実践』(宮脇千絵 2017 風響社)『東南アジア研究』55巻2号(412-414頁)

白井 健二(経営学科・教授)

・(2017年12月)『Suitable Inventory Asset Management Using Route-Dependent Options in Mathematical Finance』International Journal of Innovative Computing, Information and Control, Vol.13 No.6 (1791-1811)

・(2018年2月)『Production Model Using an Asymmetric Simple Exclusion Process』International Journal of Innovative Computing, Information and Control, Vol.14 No.1 (65-81)

藤田 晴啓(経営学科・教授)

・(2018年3月)藤田晴啓 久保田和之 河野一隆『マイクロソフト・ホロレンズ(Microsoft HoloLens)を利用した郷土人形ホログラム展示の実証実験 — デジタル・ミュージアムへの展望 —』九州国立博物館紀要『東風西声』13号(47-62頁)

藤本 直生(国際文化学科・准教授)

・(2018年1月)Naoki Fujimoto-Adamson & John Adamson "From EFL to EMI: Hybrid Practices in English as a Medium of Instruction in Japanese Tertiary Contexts", Key Issues in English

for Specific Purposes in Higher Education, Switzerland : Springer (201-221)

アレクサンドル・ブーラン(国際文化学科・教授)

・(2017年8月)Unification of Japan. Tokugawa Ieyasu (496)

吉澤 文寿(国際文化学科・教授)

・(2018年1月) "Chapter 7, The Japan-ROK Claims Settlement and the Comfort Women", Rumiko Nishino, Puja Kim, Akane Onozawa eds, Denying the Comfort Women The Japanese State's Assault on Historical Truth, London: Routledge

・(2018年3月)朴楓『阿片帝国日本と朝鮮人』岩波書店(小林元裕先生、権寧俊先生、本学非常勤講師桜沢伊先生、本学卒業生渡辺夏夏さん、村山芳行さんと共訳)

## 2) 学会・研究会・講演等

石井 忠夫(情報システム学科・教授)

・(2017年12月4日~7日) "Modalities on pair sentential calculus PSC" The 9th international Workshop on Logic and Cognition: Non-classical Modal and Predicate logics (中国・広州 Sun Yat-sen University)

石川 洋(情報システム学科・教授)

・(2018年1月30日~2月1日) "An Approach to do Big Refactoring by using Eclipse UML Plugin" 2018 International Conference on Engineering and Natural Science (北海道・札幌 プレミアホテル TSUBAKI)

臼井 陽一郎(国際文化学科・教授)

・(2018年1月30日)「分断と格差のEU2017 規範パワーEUの行方」早稲田大学現代政治経済研究所 EU研究部会(早稲田大学)

内田 享(経営学科・教授)

・(2017年12月1日) Rémy Magnier-Watanabe "Vertu organisationnelle, bien-être, performance au travail: Différences entre la France et le Japon" JOURNEE-FRANCOPHONE DE LA RECHERCHE 2017 (Maison franco-japonaise - Ebisu, Tokyo)

佐藤 泰子(国際文化学科・英語講師)

・(2018年3月27日~30日) Electric Village poster session: "The Case Study of MOOC for



新潟国際情報大学  
学長 平山 征夫

## 困難に挑む勇気を

本学の第21回卒業式を迎えることができましたことを皆さまと共に喜びたいと思います。特に今回は私にとりまして10回目、最後の卒業式となりました。皆さんを送り出すと共に私も卒業いたしました。皆さん同様、感無量の思いで今ここに立っています。卒業される皆さんに心より「おめでとう」と申し上げます。ご列席のご父母の皆さまにもお祝い申し上げます。家庭から支えてこられ、今日という日を迎えられ大きな喜びを感じておられることと思います。ご臨席いただきましたご来賓の方々にも御礼申し上げます。

卒業生諸君は、みずき野での楽しかったこと、苦しかったこと、大学生生活のいろいろな場面が走馬灯のように脳裏を駆け巡っていることでしょう。種々の困難を乗り越え、卒業の日を迎えられたことに心からのエールを送りたいと思います。振り返れば、4年はあつという間のことだったでしょう。みずき野で過ごした歳月は、皆さんには宝物のような貴重な思い出が詰まった青春の日々です。自然の中でスポーツにこそしみ、友情を育み、勉学に励んだ日々は皆さんを大きく育んでくれたはずです。今日その大学生活は終ります。大きく胸を張り自信を持って社会に巣立ってください。今日、私は最後の卒業生として情報文化

学科1名、情報システム学科173名、国際文化学科104名、2学部合計278名を送り出します。皆さんは4月

から社会人としてそれぞれ新たな人生を歩み始めます。実社会では多くの困難な課題にぶつかるでしょう。皆さんのうち多くは企業に所属するわけですが、国内外の経済情勢は企業にとって容易でない時代です。米国のトランプ大統領登場以来、世界は「不確実性の時代」に突入したと言われ、何が起きるか予測困難な時代です。昨年来北朝鮮を巡って緊張が著しく高まっています。さらに不確実性を高めているのが「AI時代」の到来です。「2050年までに現在の職業の半分がAIロボットにとって代わられるだろう」と予想されています。

それは「人間がロボットに仕事を奪われる」のか「人類が労働から開放される」のか、異なる二つの将来予測がぶつかり合っています。皆さんはこうした時代を生きてゆかなくてはなりません。それには深い知識や洞察力、そして考える力と果敢な行動力が必要です。しかし、大学で学んだことはすぐには役立ちません。だから、当分は大海にこぎ出した小舟のように漂うことでしょう。

でも、大学で学んだことは必ず役に立ちます。それは、木を支える根のように皆さんに人生で必要な知恵を送り続けてくれるはずです。戸惑う度にみずき野で学んだことが「考え、判断し、実行し、解決する力」となって皆さんを支えてくれるでしょう。大学で学んだ木がさらに枝を張り葉を茂らせるには、卒業後も学びを続けることが必要です。私は「新潟県生涯学習協会」の会長を務めていますのでPRみたいなになりますが、学校教育を終える皆さんは明日からは社会教育に取り組んでください。生涯学習協会では、インド独立の父マハトマ・ガンジーの言葉を大切にしています。それは、「明日死ぬと思って生きなさい。でも永久に生きると思って学びなさい」というものです。皆さんも明日からこの言葉を忘れずに学び続けてください。

私は毎年卒業式に当たり社会人として巣立ってゆく卒業生の皆さんに私自身が大切にしてきた言葉を「はなむけ」として送ってきました。一生忘れずに大切にしてください。という思いを込めて送ってきました。それも今回が最後になりました。最後に送る言葉は何にしようか随分迷いましたが、オーストリアの精神科医で心理学者のヴィクトール・フランクルの言葉にしました。フランクルはウィーンの人で、ナチス人の治療をナチスに禁じられ解雇されました。1941年12月に結婚しましたが、翌年9月にナチスの強制収容所に家族と共に収容され、その後両親と妻を失いました。フランクル自身はアウシュビッツから別の収容所へ移送され、1945年4月奇跡的に連合軍によって解放されました。その体験をもとに書いた「夜と霧」は、「アンネの日記」と共に多くの国で多くの人々に今も読まれています。収容所で次々と殺されてゆく人、希望を失って自ら命を絶つてゆく人を見て、フランクルは「過酷な状況でも生き延びることが出来る人は、体力が優れた人ではなく、家族を思い、音楽を愛し、そして最後まで生きる目的を失わない人であった」とことに気付いたのです。そして彼は次の言葉を残しました。それは「どんな時も、人生には意味がある。どんな人のどんな人生であれ、意味がなくなることは決してない。だから私たちは、人生の闘いだけは決して放棄してはいけない」というものです。彼のこの言葉にはどんな状況下でも生きることの大切さが込められています。私は昨年9月、ポーランドを旅し、アウシュビッツ収容所を訪れました。ホロコーストという歴史の狂気の現場に立ち、ヨーロッパ中からユダヤ人を運んできた貨車の引き込み線と粗末な木造の収容所を眺めていると、雑草の生い茂った野を渡る9月の爽やかな風にもかわらず体の震えを覚えました。「人類はどうかかわらず体虐殺という過ちを犯したのだらう」と考え込む私に、収容所の公式ガイドで唯一の日本人である中谷剛さんが言った言葉は深く残りました。

した。皆さんにも伝えるべき言葉だと思いますので、フランクルの言葉と併せて申し上げます。

「皆さんはホロコーストという残酷な事件は、ヒトラーという狂気の指導者がやったことだと思っておられるでしょうが、彼は民主主義という政治手続きで選ばれたのです。ヒトラーというリーダーを選んだ当時のドイツ国民の責任は、歴史的に問われなければなりません。しかし、もう一つ忘れてはならないのは、ヒトラーを選んだ責任は皆さんにはないとしても、これからの人類の歴史においてそれを再び繰り返さないという責任は皆さんにもあります」というものです。そう我々も、それぞれが自分の生きる時代の歴史に對しこうした狂気を引き起こさないという責任を負っているのです。そのことを忘れないでください。

経済のグローバル化進展に伴う競争激化に加え、「自国ファースト」政策のリーダーがポピュリズムで選ばれ、独裁政権が長期化する国が広がる、などの政治状況を見ると、中谷さんの指摘は現実の重みを持つて私には伝わってきます。「不確実性の時代」という視界不良の荒海に船出す皆さんには、自身の人生の意義を大切に、時代の狂気にも振り回されない真つ直ぐな精神を持って歴史の激動に立ち向かってほしいと思います。

人々が一番切望していることは「幸福に暮らす」ということです。何が幸福かの定義づけはなかなか難しいですが、その実現の前提として人々に幸福をもたらすことができる政治経済等の社会システムが存在することが必要です。現代においては人類の知恵として民主主義と資本主義をベースに社会を構築してきました。しかし、今改めて「この社会システムは、人々を幸福にするだろうか」と問い直してみますと、私は「イエス」という答えはなかなか出てきません。未だに地球上で8億人を超える人々が貧困と闘っています。日本でも、近年子供の貧困率が上昇しています。さらに多くの人々が今現在も生命の危険と闘っています。戦争やテロが収まらないからです。



難民キャンプでの生活を長期に強いられる子供たちを含む一般人が大勢います。人々を幸福にする重要な条件は「平和」であること、すなわち戦争のない世界を生きたいということ、経済的に貧困に陥る心配がないということです。

私は自分の人生を振り返る時、太平洋戦争の終戦1年前に生まれたことが一番良かったと思っています。それは、「ずっと戦争のない日本で生きてこられたこと」、そして「戦後の経済成長の中で食べてゆけるようになった」からです。皆さんが私と同じ年齢になった時同じことが言える日本であってほしいと強く願っています。歴史の

## 理事長祝辞



学校法人 新潟平成学院  
理事長 星野 元

## 自分がなすべきは何か

新潟国際情報大学の第21回卒業式を迎えられました278名の皆さん、卒業誠におめでとうございます。併せて、ご参列をいただきましたご父母の皆さん、心からお祝いとお喜びを申し上げます。また年度末のお忙しい中、多数ご臨席を賜りましたご来賓の皆さん、誠にありがとうございます。深く感謝申し上げます。

卒業式に当たり大学の設置者であります学校法人新潟平成学院を代表して一言祝辞を申し上げます。

今、「みずき野」のキャンパスでは、大雪と寒風に耐えた桜並木が春の明るい日差しを浴びて大きくツボミを膨らませています。そして西の空には弥彦、角田の山々が青く浮かんで見えます。この恵まれた環境の中で学園生活を過ごした卒業生の皆さんには生涯忘れてほしくない風景です。皆さんはいま何を思い浮かべておりますでしょう。

変動はどんな試練を皆さんに課すかわかりません。でも怯んではいられません。深い思考力と困難に挑む勇気をもって挑戦してください。いつの時代でも若者は試練に立ち向かって歴史を切り開いてきました。これから皆さんが番です。さあ、勇気と夢を抱いて飛び出していきましょう。

最後の卒業式ですので教員の皆さんにも一つの言葉を残したいと思います。授業を担当しながら私自身が大事にしてきたウィリアム・アーサー・ウォード(米国・ルイジアナ州出身の教育者)の言葉です。

普通の教師は

うか。実社会への旅立ちを目前にして、期待と不安が入り混じった複雑な心境ではないかと思っています。

新潟国際情報大学はこの4月、開学25周年の節目を迎え、新たな学部として2学科の経営情報学部がスタートを切ります。そして今ほどごあいさつがありましたように第四代学長の平山学長が学園に別れを告げ、新しい学長を迎えます。まさに「第二の開学」といってもよいでしょう。平成6年春から四半世紀の歳月を重ねた大学は、もはや新設大学のイメージもすっかり薄れて、ますます充実した大学として新潟の地に根付いております。うれしいことに今年の志願者は一千人の大台を超えました。21年ぶりの記録であり、地域の人々から大きな信頼と期待を寄せられていることの表れかと思っています。運営を預かる学院としても、改めて身が引き締まる思いです。

また、本学の同窓生は本日卒業式を迎えた皆さんが加わりますと6000人を突破します。このことも記録に残る出来事かと思えます。先輩たちは県内外のさまざまな分野で元気に生き生きと活躍しております。同窓生の7割強が就職している県内に限って言えば、本学同窓生は「一大勢力」を成してきているといっても過言ではありません。初期の卒業生は既に企業などで指導的立場で活躍しており、後に続く若い同窓生も次々に階段を登っております。皆さんはこうした先輩たちのあとを追いついていくべきです。

言わなければならないことを喋る  
良い教師は  
わかりやすいように解説する  
優れた教師は  
自らやってみせる  
そして、本当に偉大な教師というのは  
生徒の心に火をつける

卒業後も本学に思いを寄せてください。私は本学の中長期計画で本学の目標を「未来を創る大学―若者と新潟に未来を!」を掲げると共に、「地域に必要な大学であり続ける」ことも挙げました。それは卒業生諸君にとって、ずっと誇りの持てる母校で

かけ本学同窓の誇りと気概をつないでいくことになるわけです。同時にまた、多くの経験を積み上げて後輩たちを迎えなければなりません。皆さんを待ち受けるこれからの時代と社会は「試練と逆境」の真つただ中にあります。残念なことではありますがひと口に「厳しい」と言わざるを得ません。跡を絶たないテロや地域紛争、世界の格差拡大、分断と貧困、北朝鮮情勢のゆくえ、マルチタウンスした原発の廃炉、急速な高齢化、大規模過激化する自然災害等々、気がかりな問題は数えきれません。喜ばしい卒業式で暗い話はしたくありませんが、逃げられない、避けられない現実です。皆さんは、そういう時代を生き抜かなければなりません。

高齢化の問題でいえば、皆さんが働き盛りの40歳になるころは、日本はなんと7人に1人が80歳以上という超高齢化社会になります。皆さんの負担は想像もできないほど大変です。

新年早々の「新潟日報」に、新潟市出身の文芸評論家である斎藤美奈子さんの平成時代を振り返る評論が載っていました。そのなかで「経済は低迷、思想は戦前回帰、大地は揺れて、科学技術の安全神話が崩れた。問題はここ先である。中高年は上り坂の時代に散々甘い汁を吸った。しかし若い世代は望みもしない下り坂を押し付けられてはたまらない」と書いてありました。その通りかと思いますが、下り坂があること

あり続けるということです。どうか卒業後も同窓会活動などを通じて大学とつながっていただく。私もOBの一人として心を寄せてゆこうと思います。

今年の春は冬が厳しかった反動分早いうで、間もなく桜が咲き誇るでしょう。そして本学も25回目の新入生を迎え、新たな歴史を刻み始めることになりました。私も皆さんと一緒に本学を去りますが、共に本学の発展を祈念し見守ってゆきましょう。

終わりに社会人として新たな人生に歩み出す皆さんの前途に「幸多かれ」と心からのエールを送って私の最後のお祝いの言葉といたします。

は現実かと思っています。ただし、ゆつくり坂を下りて行こう、などという考え方には同調できません。

皆さんの前には、上り坂しかないと思っ

てほしい。上だけを見てほしいのです。厳

しい将来であっても敢然と立ち向かうのは

若者です。逃げ込む道はないと思います、不

転の覚悟をもってほしい。一人ひとりが秘

めた力を持っている、それが若者だと私は確信しています。いつの時代も若者が歴史を変え、社会の中心的役割を果たしてきました。皆さんはそうした若者の一人です。私は人間の生涯にとって最も辛いこと、それは明確な目標や使命感を持たないまま仕事をすることと思っています。自分の存在意義を不鮮明にしたまま日々を流れていくほど無意味なことはありません。皆さんはこれから実社会に巣立つわけですが、最初から「やりがい」を味わうことなど「ない」と覚悟していたほうがよいでしょう。「やりがい」を感じるまで、そこに到達するまでの道のりが重要なのです。そしてその裏には苦勞の積み重ねがあり、その苦勞は自身の努力で克服しなければなりません。同時に「努力の質」も問われます。「自分がなすべきは何か」―これからいつも自分に問い続け、確かめながら歩んでいく人生であってほしいと思います。卒業式に当たりこのことを皆さんに願って、祝辞といたします。どうか体に気をつけて頑張ってください。



〈総代〉情報文化学部  
土田 康裕

## 人の縁を大切に

例年にならない豪雪に見舞われた冬も終わりを迎え、柔らかな春の訪れが全身に感じられる季節となりました。平山学長をはじめ諸先生方並びに来賓の皆さまの御臨席を賜り、盛大な卒業式を挙行していただき、卒業生一同心より御礼申し上げます。

「光陰矢の如し」。時の流れは早いもので、期待と不安を胸に不慣れなスーツを身につけて参加した入学式からの4年間はあっという間でした。

私はなんとなく大学に進学し、周りの仲間が早くに働き人生経験を積んでいる中、多くの学費を納めて勉学に努めてまいりました。よく学生の仕事は勉強だ、と人生の先輩は言いますが、この4年間真摯に学業に取り組んできたかと問われると、少し首をかしげるかもしれません。

一つ確実に言えることは、学生生活では多くの人と出会い、いろいろな経験を重ね、楽しく満足の気持ちで一杯です。気軽に質問ができ適切なアドバイスをしてくださった先生方や職員の皆さま、心優しくサポートしてくださったキャリア支援課の皆さま、プロジェクトに参加した際に優しく教えてくださった地域の皆さまや企業の皆さま

ま、そして共に課題に取り組んだ仲間、スポーツ仲間、ふざけ合った仲間など大学や世代の垣根を越えて交流し、つながりを持てたのはとても幸せだと感じています。

人脈は財産とも言われるほど、この世で出会う人は人生の宝物であり、全てプラスに働きかけます。経験を持った人との出会いは、知らなかったことを教えてくれ、生き方を知ることでも心豊かになります。嫌な人との出会いもあるでしょう。でもそれによって自分が傷つくことを体験することで人に対する痛みを知ることができると思います。

たらこれからの糧になります。

以前までの私は、何か新しいことを始めるにあたり、一人で本やインターネットを通して専門知識を身につけることが大切だと思っていました。今考えると、それもある意味正しいことかもしれませんが、人に頼ることも大切ではないかと思えます。世の中は広く、自分の知識だけでは足りません。その足りない部分を補ってくれる存在が人とのつながりである「縁」ではないかと感じます。人生は有限だからこそ、今まで関わった人やこれから関わるであろう人



平成29年度  
新潟国際情報大学卒業式

## JABEE認定プログラム

### 22人に修了証書授与

卒業式に先立ち、JABEE(日本技術者教育認定機構)で認定されている情報システム技術プログラムの修了証書授与式が行われました。22名の修了生は学長から一人ずつ修了証書を授与されました。

修了生は、文部科学省が定める技術士第一次試験免除の優遇措置が受けられます。また、情報システムを開発する技術者になるために必要な教育を受けたことが社会的評価として与えられます。

継続研さんと情報交換を行うために、技術士と教員による交流会を年2回(新潟と東京)開催しています。このような機会も利用して、ますます社会で活躍されることを期待します。

(情報システム学科 教授 石川 洋)

## 祝電

順不同

との「縁」を大事にしていきたいと思っています。最後にりましたが、先生方のご指導、職員の皆さまの助け、苦楽を共にした仲間、そして温かく見守ってくださった地域の皆さま、心の支えとなってくれた家族があつて初めて卒業の日を迎えることができました。卒業生を代表して、私たちを支え、導いてくださった全ての方に心より御礼申し上げます。皆さま方のご健康と新潟国際情報大学のさらなる発展を願い、答辞とさせていただきます。

|                     |         |        |
|---------------------|---------|--------|
| 日本私立大学協会            | 会長      | 大沼 淳一様 |
| 新潟県 知事              |         | 米山 隆一様 |
| 新潟市 市長              |         | 篠田 昭様  |
| エイジエックグループ代表        |         | 古後 昌彦様 |
| 株式会社NSGホールディングス     |         | 池田 祥護様 |
| セコム上信越株式会社          |         |        |
| 代表取締役会長             | 野沢 慎吾様  |        |
| 株式会社総研システムズ         |         |        |
| 代表取締役社長             | 清水 保様   |        |
| ALSO K              |         |        |
| 新潟総合警備保障株式会社        |         |        |
| 代表取締役社長             | 廣田 幹人様  |        |
| 株式会社日本ドリコム          |         |        |
| 代表取締役               | 山城 由紀雄様 |        |
| 株式会社福田組             |         |        |
| 代表取締役社長             | 太田 豊彦様  |        |
| 株式会社ホテル清風苑          |         |        |
| 代表取締役社長             | 樋口 智子様  |        |
| 株式会社マリイ             |         |        |
| 代表取締役               | 清水 辰雄様  |        |
| 株式会社リクルート北関東マーケティング |         |        |
| 代表取締役社長             | 中島 淳二様  |        |



4年間、さまざまな場面があった。普段の食事から世界で国際交流をする機会があった。食糧問題を解決していく。2年次に派遣留学（Table For Two）という仕組みを学んで4カ月間ロシアのウラジオストクに行き、3年次は約3週間カンボジアでボランティア活動などを行いました。大学生活の4年間、多くの貴重な経験ができました。

## 国際交流で貴重な経験

国際文化学科 長崎 春花

海外の異文化に触れて自分を持つていた偏見について考え、日本や自分を持つてもらうのが目的で見つめなおす良いきっかけとなりました。また、新しいことに挑戦する大切さを学びました。3年次はTF-T-N-U-Iという団体を立ち上げました。去年6月にTF-Tを導入できた友人たち、指導してくださった先生方、支えてくれた家族に感謝したいです。本当にありがとうございました。

振り返れば、3年から卒業まで2年間関わった「内野商店街活性化プロジェクト」の活動が大学生活の大部分を占めているように思います。この活動では、最初にさまざまな調査を行い、内野商店街の問題点や利点を抽出したうえで、問題点を解決し利点を生かすイベントとして、商店街にある酒蔵の日本酒という資源（特産品）によるイベントを実施しました。また、活動により市役所、商工会、商店街の方々とも

## 商店街活性化に関わる

情報システム学科 星野 誠也

機会を与えてくださった藤田美幸先生をはじめ、新潟市西区役所、新潟市西区自治協議会、新潟市西区公民館の皆さまに感謝しています。

# 友人たち、先生、家族に感謝

入学してからの4年間に多くの出会いと学びがありました。3年からはゼミで心理学を専攻しました。卒業研究では初めて自分でテーマを決め、仮説を立て、それを検証するために実験をしました。この経験を通して教えた友人たち、そして大学に通わせてくれた両親への感謝を糧に社会人としてこれからは積極的に行動に移すことを大切に学びました。

## 出会いと学びが財産に

情報システム学科 佐藤 諒子

2年次の後期にアメリカへ留学しました。最初は話を聞き取ることもままならず、YesかNoの返答で精一杯でした。ESLという多様な国籍の人が英語を学ぶクラスで日本との違いに戸惑いを感じていました。非常に刺激的な日々でした。自分の意見が常に求められ、文化の違いに英語で伝えるのは大変でしたが、次第に慣れて充実した時間を過ごすことができました。特に刺激を受けたのはアメリカの大学に通う同年代の学生たちでした。明確な将来の目標を持ち、早朝から深夜まで日本の大学や使い方で堂々と話していることを知り、英語に対するコンプレックスがなくなりました。そこから英語を生かす職に就こうと決断することができました。

## アメリカ留学で変わる

国際文化学科 水内 俊貴

思い返せばあつという間でした。周りの人に恵まれて支えてもらってばかりの大学生活でした。支えてくださった方々に感謝すると共に、ご恩をどこかで返していければと考えています。

# 卒業にあたって



# 平成29年度 卒業生おめでとう

## 晴れやか 278人の門出を祝う



平成29年度第21回卒業式が3月24日、新潟市民芸術文化会館（りゅーとぴあ）で行われ、卒業生278人（情報文化学部174人、国際学部104人）が決意を新たに社会へ巣立ちました。

学位記授与式は一人ひとりが名前を呼ばれて登壇し、平山征夫学長が「おめでとう」と固い握手で祝福しました。学長は「勇気と夢を抱き、自信を持って社会に巣立ってほしい。多くの困難にぶつかるでしょうが大学で学んだことは必ず役に立ちます。そして卒業後も学び続けることが必要です」と激励。「私も学長を卒業します。感無量の思いです。本学の発展を共に見守っていきましょう」と呼びかけました。

大学の設置者、学校法人新潟平成学院の星野元理事長は「厳しい将来でも、真正面に向き合い敢然と立ち向かってほしい。いつの時代も若者が歴史を変え社会の中心的役割を果たします。一步一步、苦勞と努力を積み重ねてください」と祝辞。来賓の福田勝之新潟商工会議所会頭が「チャレンジ精神と感謝の気持ちで、地域経済を支える力になって活躍してほしい」とエールを贈りました。

卒業生を代表して情報文化学部の土田康裕さんが「気軽に話せる先生、苦樂を共にした仲間、優しい地域の皆さま。多くの人に出会い交流できたことは幸せ。心よりお礼申し上げます」と答辞を述べました。

校歌「空がある 風がある 光がある」を卒業生、教職員、来賓、父母ら全員で斉唱して大ホールは喜びに包まれました。

### 第21回までの卒業生は合計6,083人に

| 年 度        | 卒業者数   | 情報文化学科 | 情報システム学科 |
|------------|--------|--------|----------|
| 平成9年度(第1回) | 295人   | 116人   | 179人     |
| 10年度(第2回)  | 290人   | 124人   | 166人     |
| 11年度(第3回)  | 303人   | 126人   | 177人     |
| 12年度(第4回)  | 294人   | 116人   | 178人     |
| 13年度(第5回)  | 291人   | 118人   | 173人     |
| 14年度(第6回)  | 277人   | 111人   | 166人     |
| 15年度(第7回)  | 314人   | 118人   | 196人     |
| 16年度(第8回)  | 294人   | 115人   | 179人     |
| 17年度(第9回)  | 299人   | 121人   | 178人     |
| 18年度(第10回) | 278人   | 110人   | 168人     |
| 19年度(第11回) | 312人   | 126人   | 186人     |
| 20年度(第12回) | 285人   | 117人   | 168人     |
| 21年度(第13回) | 267人   | 105人   | 162人     |
| 22年度(第14回) | 310人   | 117人   | 193人     |
| 23年度(第15回) | 272人   | 110人   | 162人     |
| 24年度(第16回) | 294人   | 113人   | 181人     |
| 25年度(第17回) | 291人   | 124人   | 167人     |
| 26年度(第18回) | 278人   | 107人   | 171人     |
| 27年度(第19回) | 269人   | 124人   | 145人     |
| 28年度(第20回) | 288人   | 114人   | 174人     |
| 年 度        | 卒業者数   | 国際文化学科 | 情報システム学科 |
| 29年度(第21回) | 282人   | 106人   | 176人     |
| 合 計        | 6,083人 | 2,438人 | 3,645人   |

※9月卒業生含む



### 平成29年度 卒業生特別表彰

#### 学長賞（学業成績優秀者）

情報文化学部（総代）

国際学部

土田 康裕  
上村 果穂

#### 学術賞

国際学部

高橋 佳那子

第15回新潟ロシア語スピーチコンテスト入門Aの部で第2位、翌年の同コンテストでは入門Bの部で優勝するなど、優秀な成績を修めました。

#### 地域交流賞

情報文化学部

市川 耕史 符合 翼  
白木 裕貴 松田 和也

4名は「ちよこつと十日町」作製及び縄文チームとして、2年間にわたり民官学の連携による研究を行い、十日町市笹山遺跡周辺で毎年開催されているイベント「笹山じょうもん市」の中で行う企画を持ち込み、実施しました。また、観光パンフレットを自主的に作製し、NPO笹山縄文の里や中条地区振興会から賞賛され、新聞等にも取り上げられました。

情報文化学部

高井 凌司 高橋 京佑  
二宮 隆史 本間 大貴

4名は新潟市古町地区において2年間にわたり産官学連携による地域活性化の研究を行い「地ラボニイガタ」に採択されました。また、スマートフォンを用いた「まちあるき」のビジネスモデルを構築し、新聞等に掲載されるなど本学の知名度を高めました。

情報文化学部

星野 誠也

「新潟市西区内野商店街活性化プロジェクト」のリーダーとして活動し、内野地区に若年層の回遊を促進するためにイベントを実施しました。また、西区の夢プロジェクト策定メンバーとして市長へ政策提言のプレゼンテーションを行うなど多岐にわたり産官学連携による地域活性化の研究活動を行い、高い評価を得ました。